

2015年度 調査結果（2014年4月発行）

外国人留学生の就職活動状況

日本企業のグローバル展開に伴い、多くの企業が外国人留学生の採用に力を入れており、今後ますますの増加が予想される。ディスコでは日経就職ナビに会員登録している、就職活動中の外国人留学生を対象に、職業観や就職活動状況など多岐にわたる項目を調査した。比較可能なものに関しては海外の大学で学ぶ日本人留学生や、国内学生（日経就職ナビ・就職活動モニター）の調査データを引用しながら分析する。

【主な調査内容】

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1. 就職戦線の見方 | ・・・・・・・・ P 2 |
| 2. エントリー社数とセミナー参加社数 | ・・・・・・・・ P 2 |
| 3. 現時点での志望業界 | ・・・・・・・・ P 3 |
| 4. 就職活動を開始した時期 | ・・・・・・・・ P 4 |
| 5. 活動の中心としている企業規模 | ・・・・・・・・ P 4 |
| 6. 企業研究をする上で知りたい情報 | ・・・・・・・・ P 5 |
| 7. 就職したい理由と就職先企業を選ぶ際に重視する点 | ・・・・・・・・ P 6 |
| 8. 就職後のキャリアプラン | ・・・・・・・・ P 7 |
| 9. 出世希望ランク | ・・・・・・・・ P 7 |
| 10. 卒業後の最初の就職希望地と海外拠点への赴任意向 | ・・・・・・・・ P 8 |
| 11. 現在の語学力（日本語力・英語力） | ・・・・・・・・ P 9 |
| 12. 企業に評価してもらいたいこと | ・・・・・・・・ P 10 |
| 13. 就職活動に関する意見やアドバイスを参考にしている人 | ・・・・・・・・ P 11 |
| 14. 日本の就職活動で違和感を覚えた制度や習慣 | ・・・・・・・・ P 12 |

《調査概要》

調査対象：2015年3月卒業予定の外国人留学生（現在、大学4年生・大学院修士課程2年生）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2014年3月4日～23日
 サンプルング：日経就職ナビ2015に登録している外国人留学生4,092人

回答者の属性 単位：人

| | 男子 | 女子 | 合計 |
|----|-----|-----|-----|
| 文系 | 94 | 126 | 220 |
| 理系 | 52 | 41 | 93 |
| 合計 | 146 | 167 | 313 |

| | |
|-----|-----|
| 大学院 | 174 |
| 学部 | 139 |
| 合計 | 313 |

| | |
|-----|-----|
| 国公立 | 157 |
| 私立 | 156 |
| 合計 | 313 |

●出身国・地域

| 中国 | 韓国 | 台湾 | 東南アジア | 南アジア | 東欧 | アフリカ | 北米 | 中南米 | その他 | 合計 |
|-----|----|----|-------|------|----|------|----|-----|-----|-----|
| 260 | 27 | 9 | 13 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 313 |

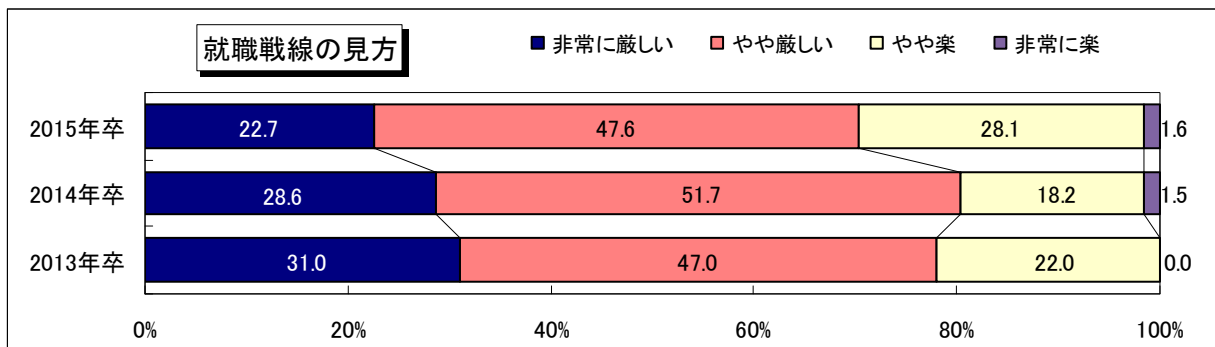
※国内学生の調査結果は「日経就職ナビ2015 就職活動モニター調査」（2013年11月、2014年1月、2月、3月調査）より
 ※企業調査結果は、「採用活動に関する企業調査」（2014年2月調査）より

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505／株式会社ディスコ キャリアリサーチ

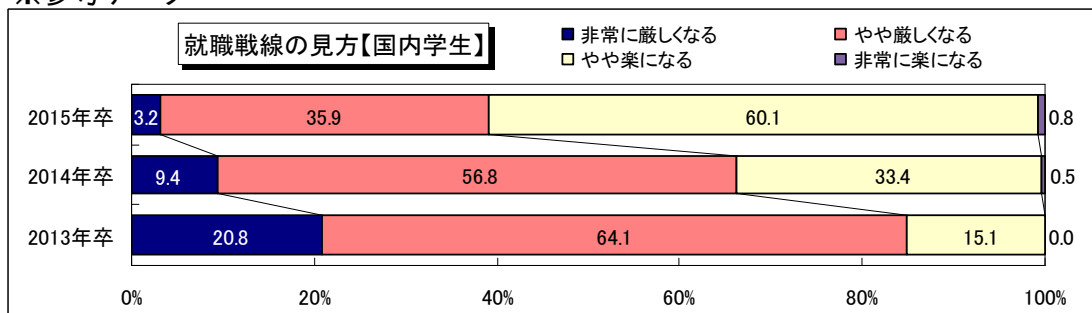
日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

1. 就職戦線の見方

就職戦線をどのように見ているかを尋ねた。「非常に厳しい」と感じている学生は、2013 年卒者では 31.0%だったのが、徐々に減少し、2015 年卒者では 22.7%まで下がった。外国人留学生の就職環境も、国内学生（日本人学生）同様、改善していると考えられる。



※参考データ



2. エントリー社数とセミナー参加社数

調査時点でエントリーした社数については、全体で 40.0 社と、ほぼ同時期の日本人学生の 73.5 社に比べてかなり少ない社数であった。しかし、セミナーに参加した社数は全体で 43.0 社で、国内学生とほぼ同数だった。

外国人留学生は合同開催セミナーでの訪問社数が国内学生よりも多い結果となり、より積極的に活用している様子が見える。

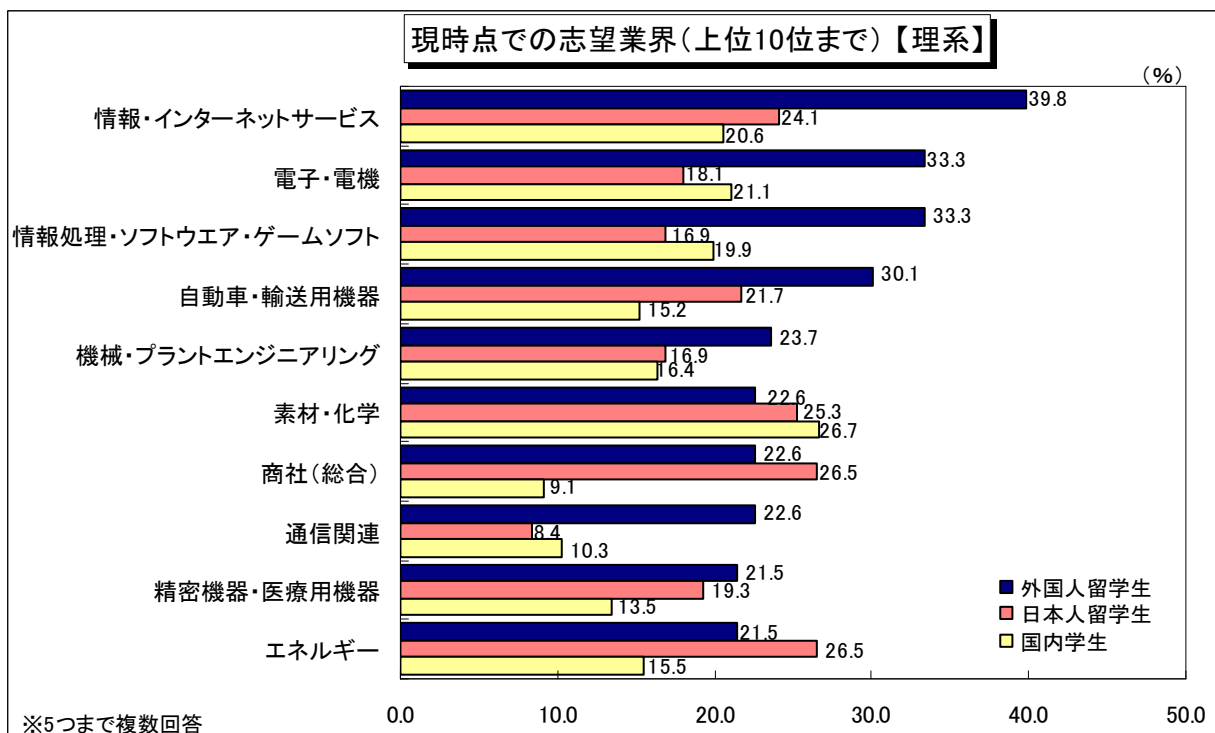
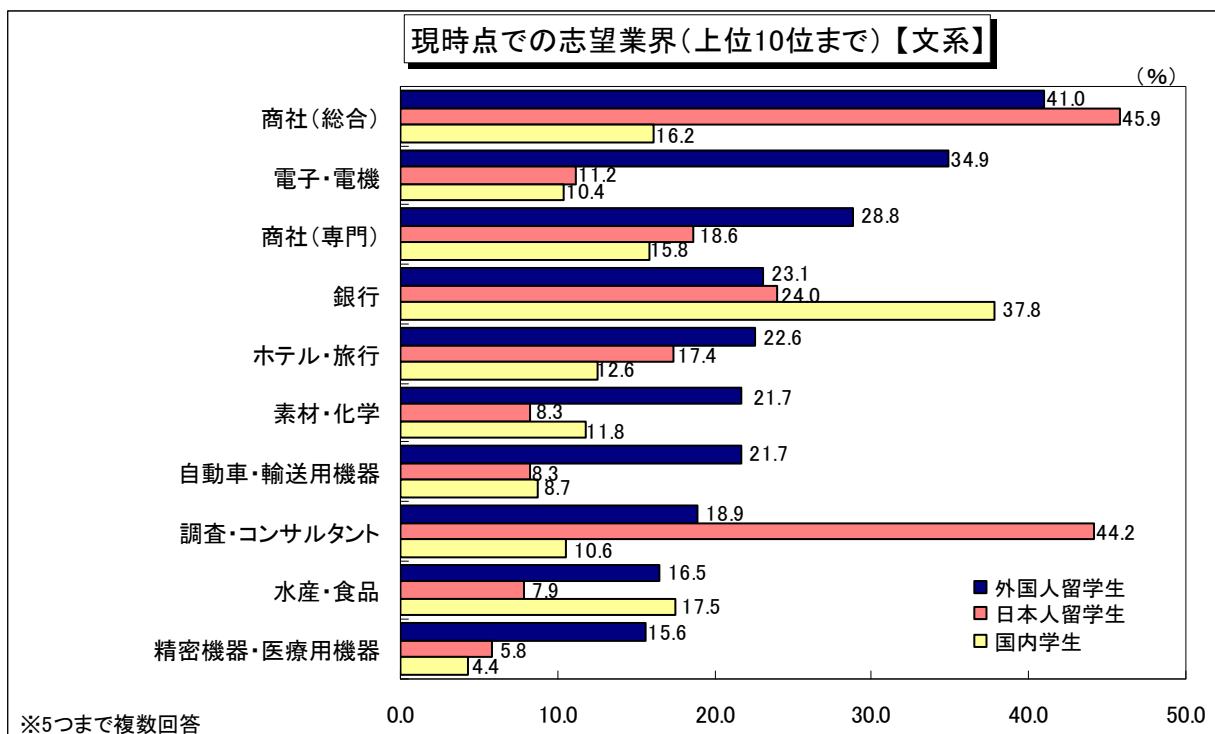
| エントリー社数 | | | | | | (社) |
|---------|------|------|------|------|------|--------|
| | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 | 【国内学生】 |
| エントリー社数 | 40.0 | 39.8 | 46.7 | 27.1 | 35.9 | 73.5 |

| セミナー参加社数 | | | | | | (社) |
|----------------|------|------|------|------|------|--------|
| | 全体 | 文系男子 | 文系女子 | 理系男子 | 理系女子 | 【国内学生】 |
| 企業単独開催セミナーの社数 | 13.5 | 14.4 | 14.4 | 9.6 | 13.1 | 17.7 |
| 合同開催セミナーでの訪問社数 | 18.4 | 22.6 | 16.9 | 18.7 | 13.4 | 14.7 |
| 学内開催セミナーでの訪問社数 | 11.1 | 15.5 | 10.3 | 10.9 | 6.7 | 12.3 |
| 合計 | 43.0 | 52.5 | 41.6 | 39.2 | 33.3 | 44.7 |

3. 現時点での志望業界

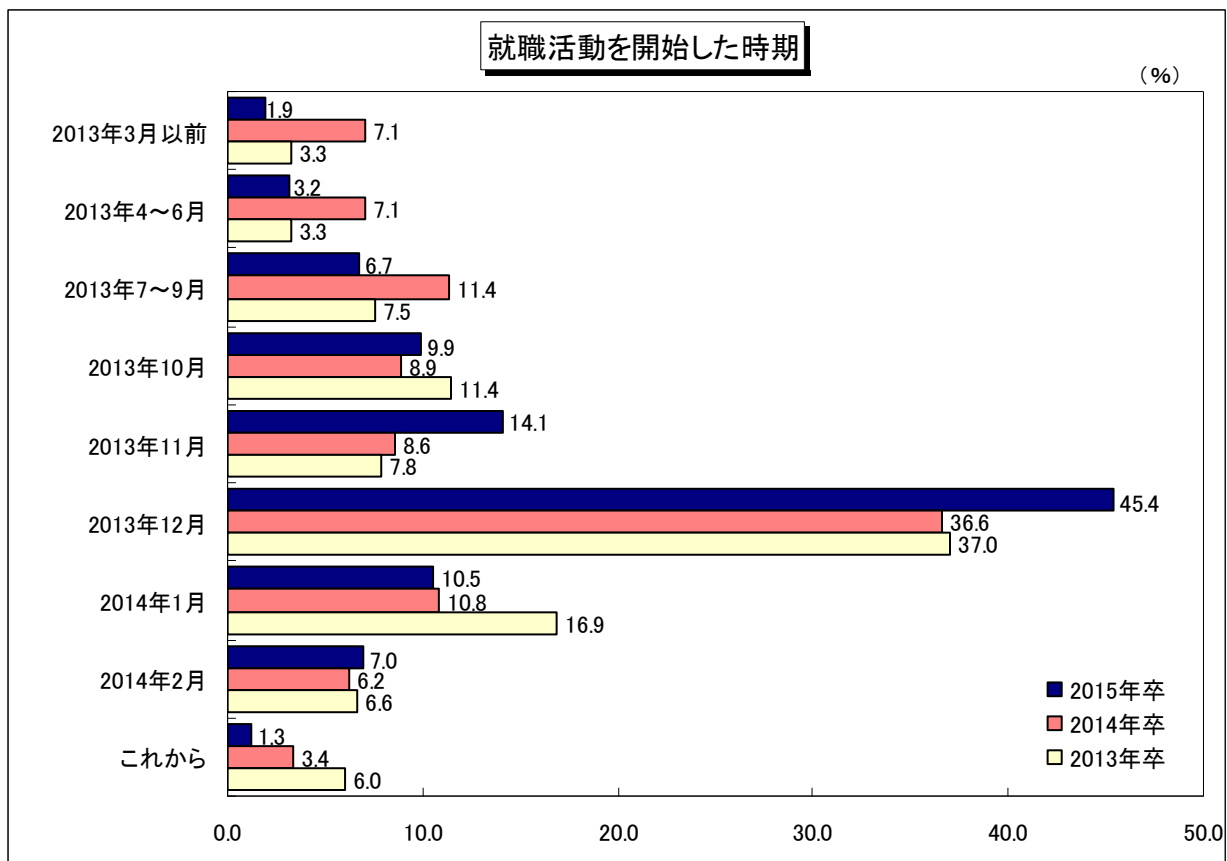
外国人留学生の志望業界は、文系では「商社（総合）」が41.0%と一番多く、次に「電子・電機」の34.9%、「商社（専門）」の28.8%が続き、商社の人気が高いことがわかる。

理系では「情報・インターネットサービス」が39.8%で一番多く、続いて「電子・電機」と「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」がともに33.3%と、情報系の人気が高かった。



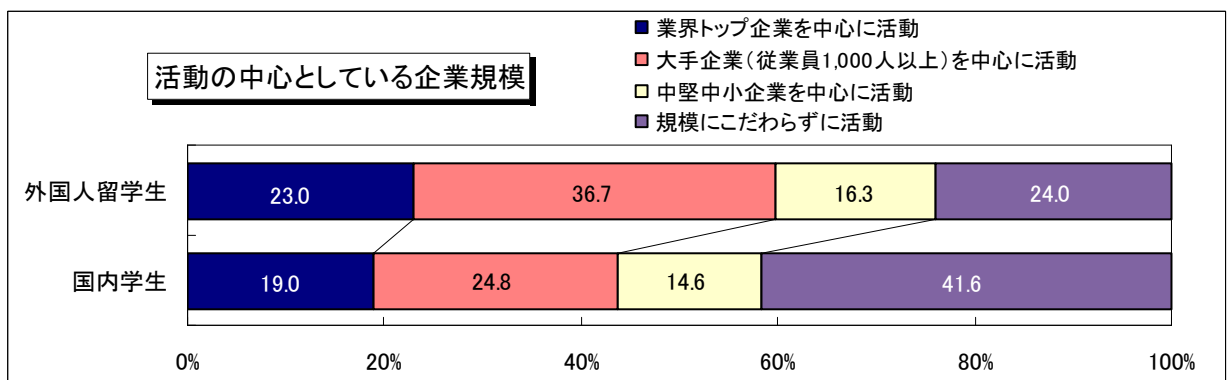
4. 就職活動を開始した時期

就職活動を開始した時期を尋ねたところ、「2013年12月」と回答した学生が45.4%と最も多かった。多くの外国人留学生が、企業の採用広報の開始時期に合わせて就職活動を始めており、前年・前々年に比べてもこの時期への集中度合いが高まった。



5. 活動の中心としている企業規模

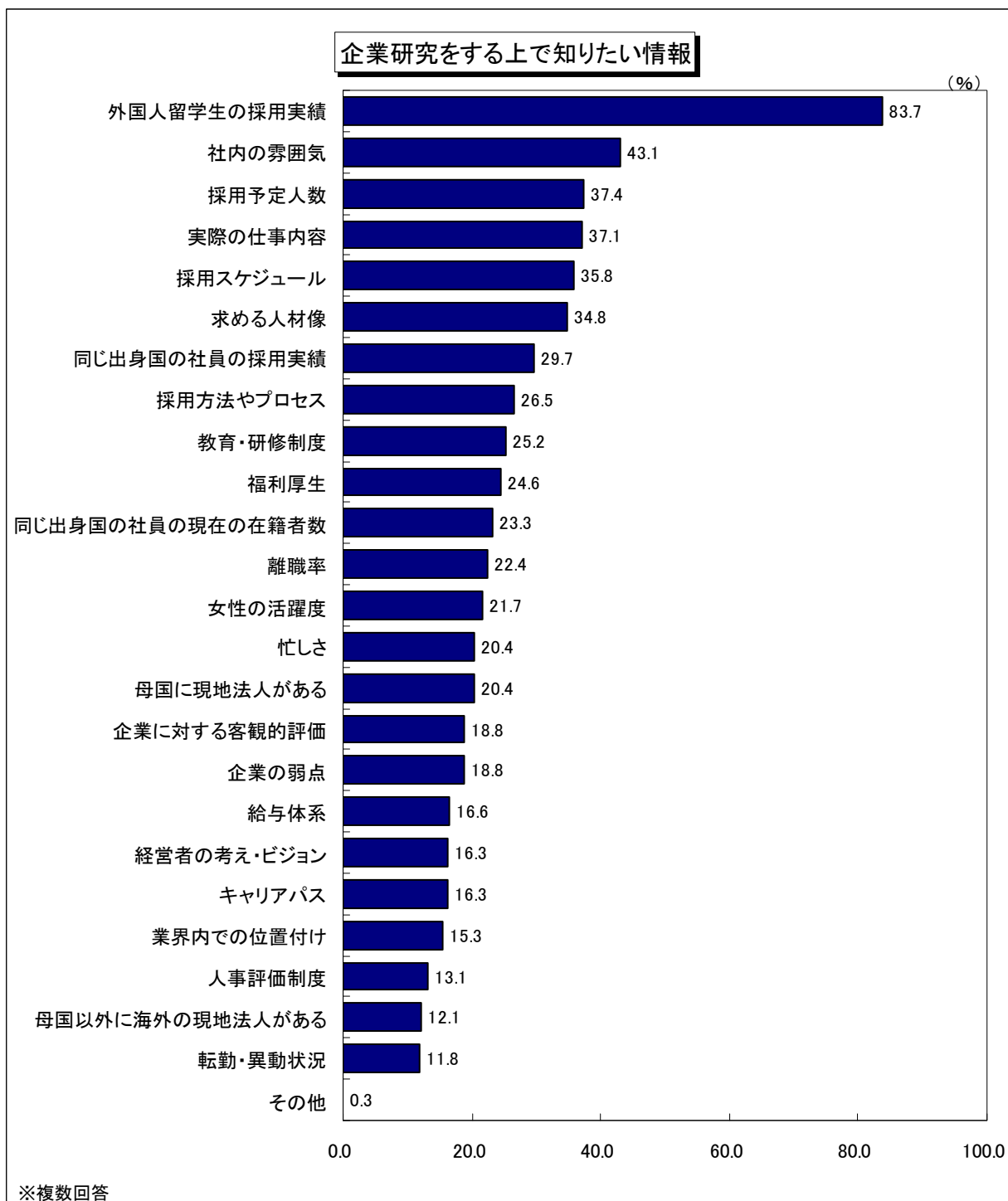
就職活動の中心としている企業の規模については、「業界トップ企業を中心に活動」が23.0%、「大手企業（従業員1,000人以上）を中心に活動」が36.7%と、大企業を中心に活動している学生が半数を超えており、国内学生より大手志向と言える。「規模にこだわらずに活動」と回答した学生が国内学生と比べて少なかったことから、外国人留学生は希望の企業規模を明確にして就職活動をしていることがうかがえる。



6. 企業研究をする上で知りたい情報

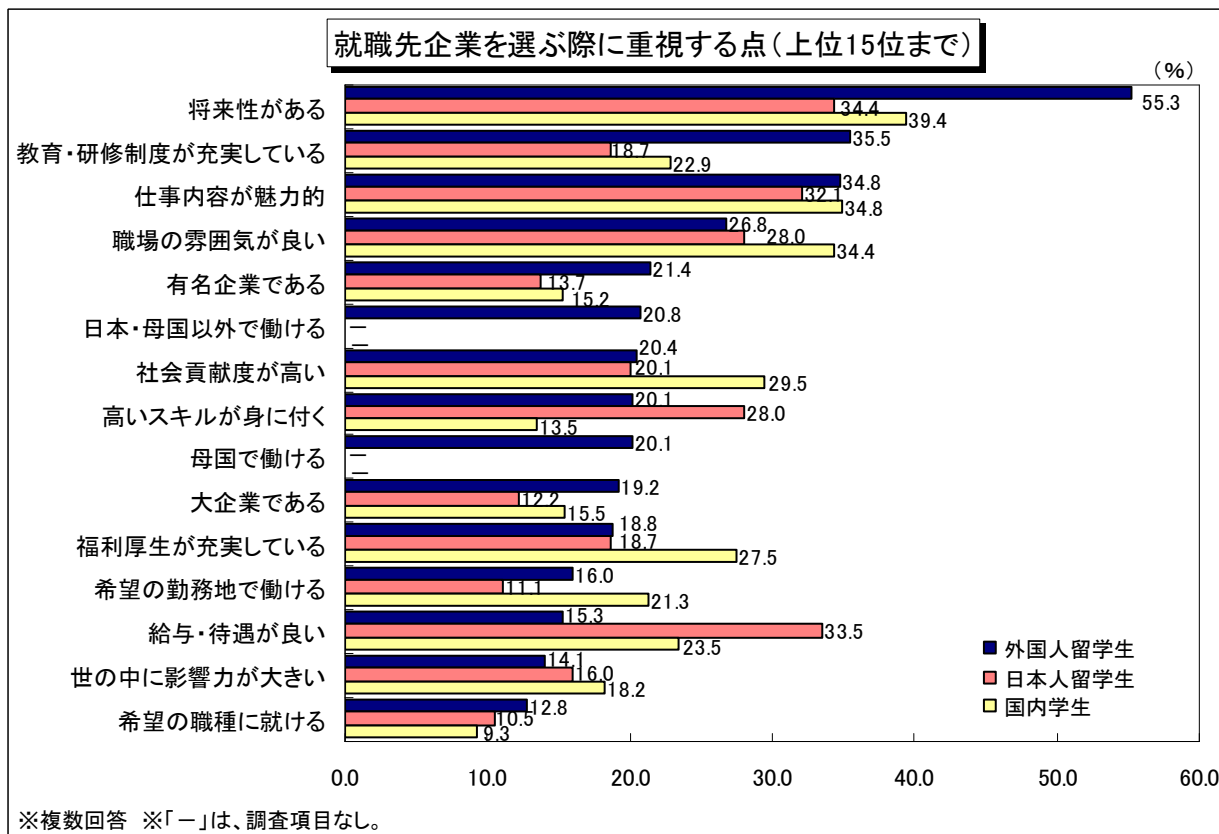
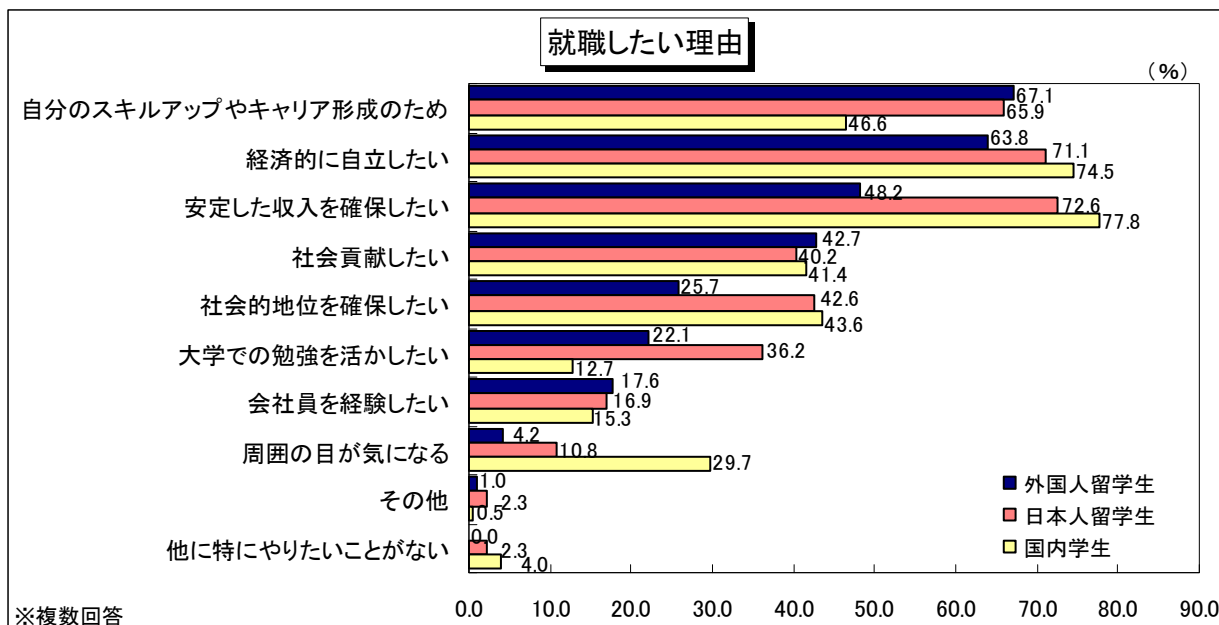
外国人留学生が企業研究をする上で知りたい情報は、「外国人留学生の採用実績」が 83.7%と圧倒的に多く、社内の雰囲気や仕事内容などを大きく上回る。また、採用に関する情報についても比較的関心が高い。

なお、「同じ出身国の社員の採用実績」や「同じ出身国の社員の現在の在籍者数」については、ともに 3 割に満たず、同じ出身国であることに強くこだわる外国人留学生は少ないことがわかる。



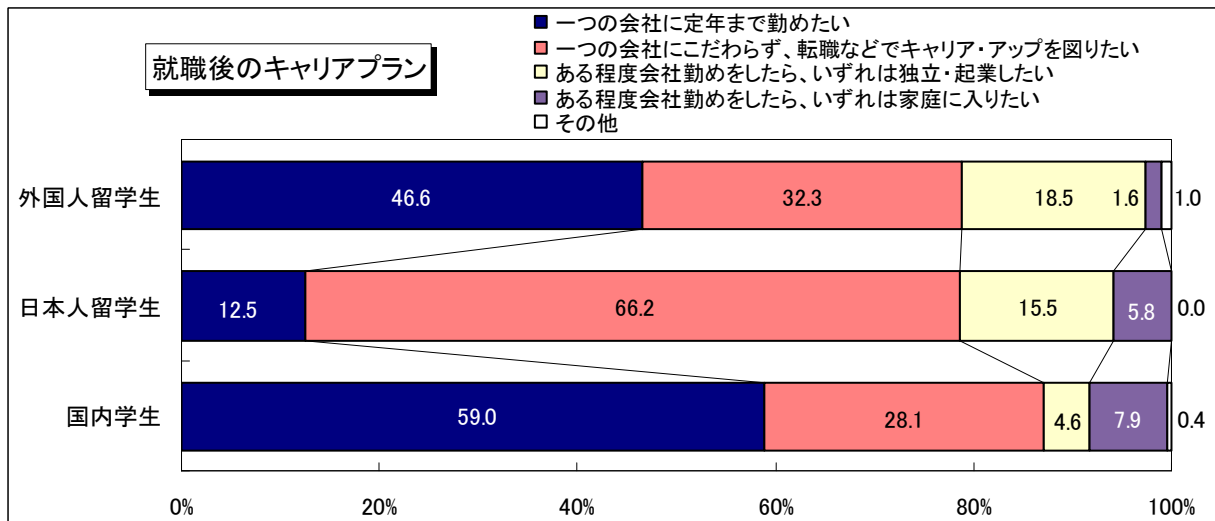
7. 就職したい理由と就職先企業を選ぶ際に重視する点

外国人留学生が就職したい理由は、「自分のスキルアップやキャリア形成のため」67.1%、「経済的に自立したい」63.8%、「安定した収入を確保したい」48.2%の順。一方、就職先を選ぶ際に重視する点は、「将来性がある」が55.3%と最も多く、日本の企業の特徴である「教育・研修制度が充実している」が35.5%と続いた。



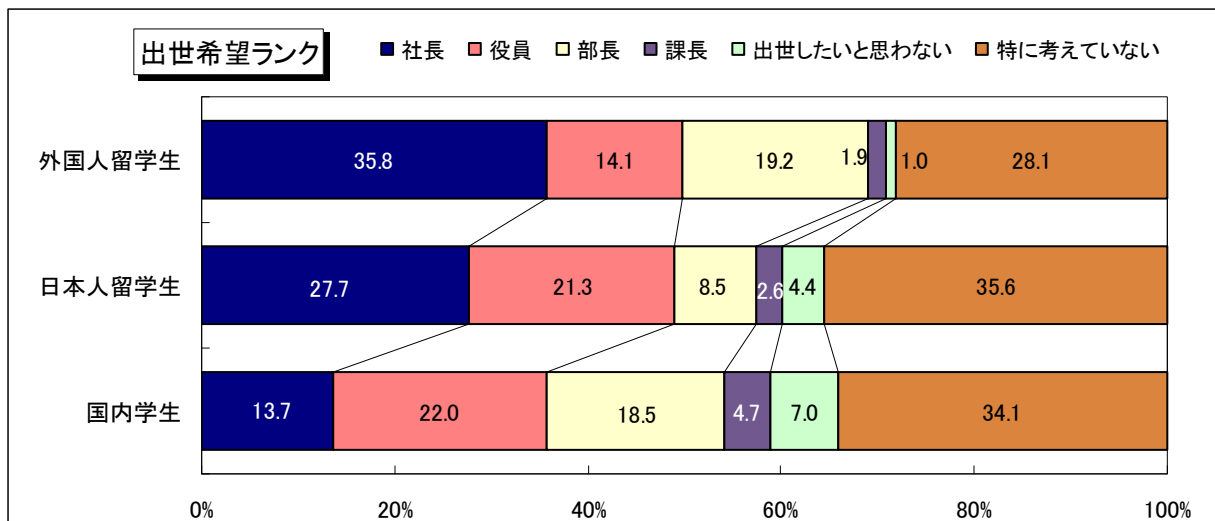
8. 就職後のキャリアプラン

就職後のキャリアプランについては、外国人留学生は「一つの会社に定年まで勤めたい」と回答した学生が 46.6%で一番多い結果となった。但し、「ある程度会社勤めをしたら、いずれは独立・起業したい」という回答が 18.5%と、日本人留学生や国内学生よりも独立・起業志向の学生の割合が高い。



9. 出世希望ランク

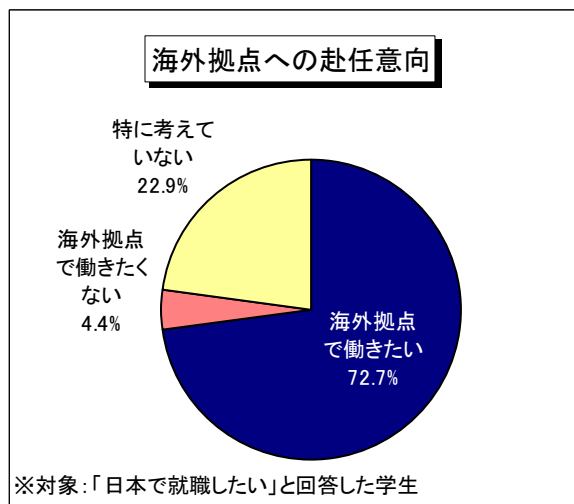
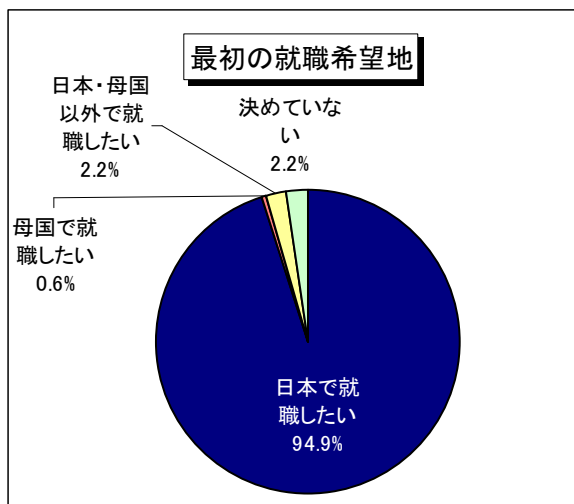
外国人留学生の出世希望ランクについては、「社長」と回答している学生が 35.8%と最も多く、日本人留学生や国内学生と比較し、より上位の役職を目指している学生が多い。上昇志向が強いことがうかがえる。



10. 卒業後の最初の就職希望地と海外拠点への赴任意向

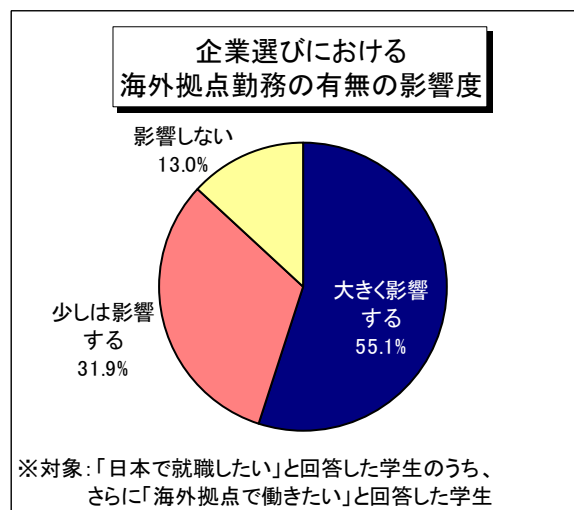
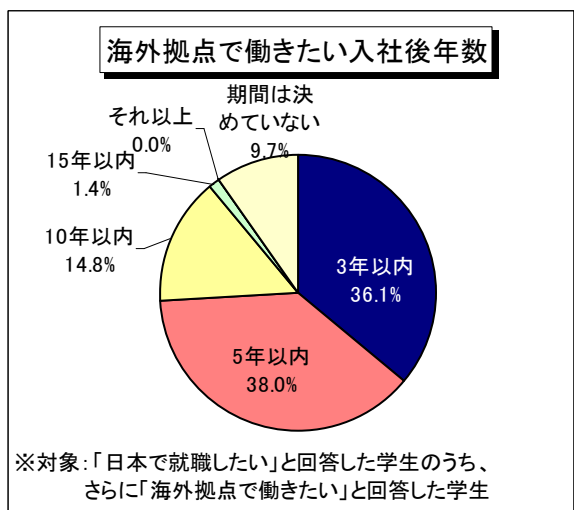
外国人留学生の最初の就職希望地については、94.9%の学生が「日本で就職したい」と回答しており、ほとんどの学生が、まず日本で働きたいと考えていることがわかった。

そして、「日本で就職したい」と回答した学生に、日本で就職後にその企業の海外拠点で働きたいか（赴任意向）を尋ねたところ、「海外拠点で働きたい」と回答した学生が 72.7%と圧倒的に多く、逆に「海外拠点で働きたくない」と回答した学生は 4.4%とかなりの少数派となった。



「日本で就職したい」と回答した学生のうち、さらに「海外拠点で働きたい」と回答した学生に、入社してから何年後に海外拠点で働きたいかと尋ねたところ、「3 年以内」が 36.1%、「5 年以内」が 38.0%と、入社後、早い段階から赴任したいと考えている学生が多いことがわかる。

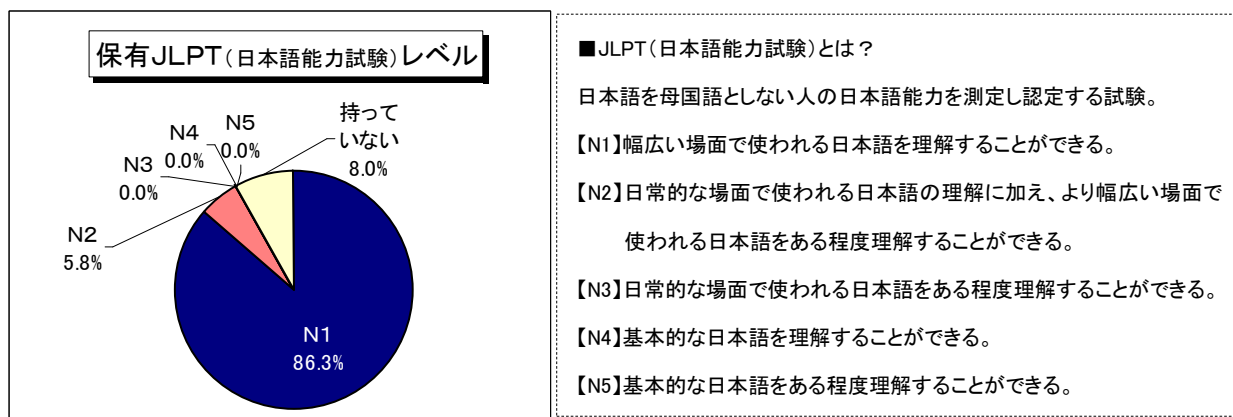
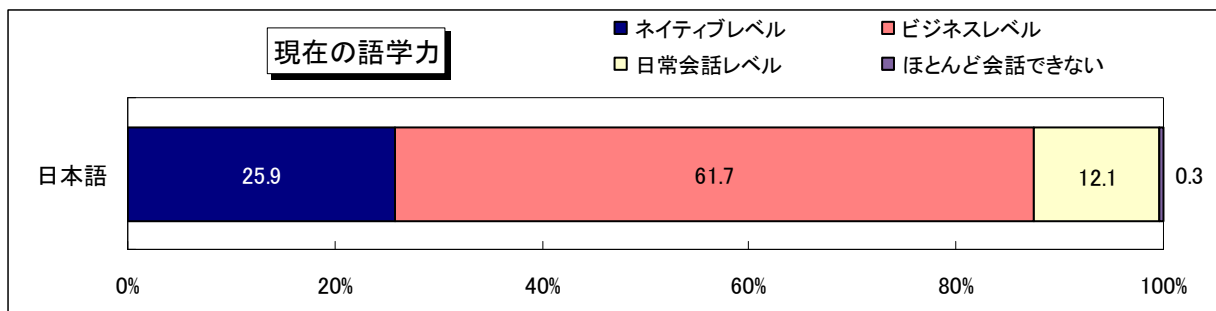
また、就職先企業を選ぶ際に、海外拠点への勤務の有無が影響するかについても尋ねたところ、「大きく影響する」と回答した学生が 55.1%、「少しは影響する」と回答した学生が 31.9%と、9 割弱の学生が海外拠点への赴任があるかどうか企業が選びに影響すると考えていることがわかった。



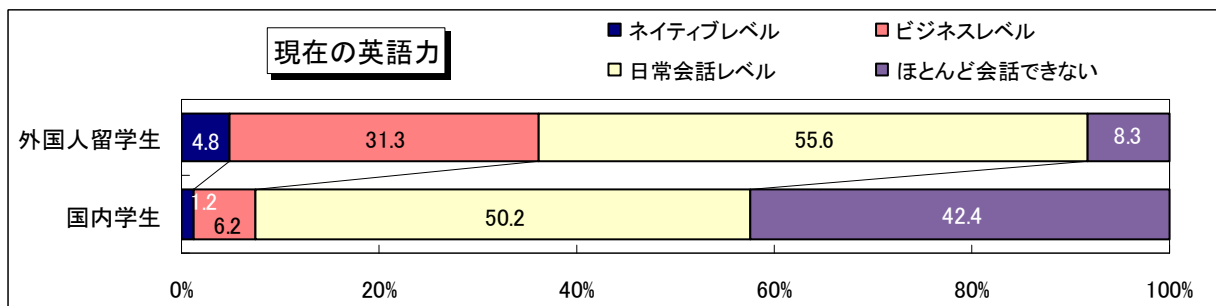
11. 現在の語学力（日本語力・英語力）

現在の語学力を尋ねた。日本語力については、「ネイティブレベル」が 25.9%、「ビジネスレベル」が 61.7%と、9 割に近い学生がビジネスレベル以上の日本語を話せると回答した。実際に、保有している J L P T（日本語能力試験）のレベルも、最高レベルである「N 1」を保有している学生が 86.3%と圧倒的に多かった。

後述の通り、日本語力に不安を感じてはいるものの、実際の日本語力のレベルはかなり高いと言える。

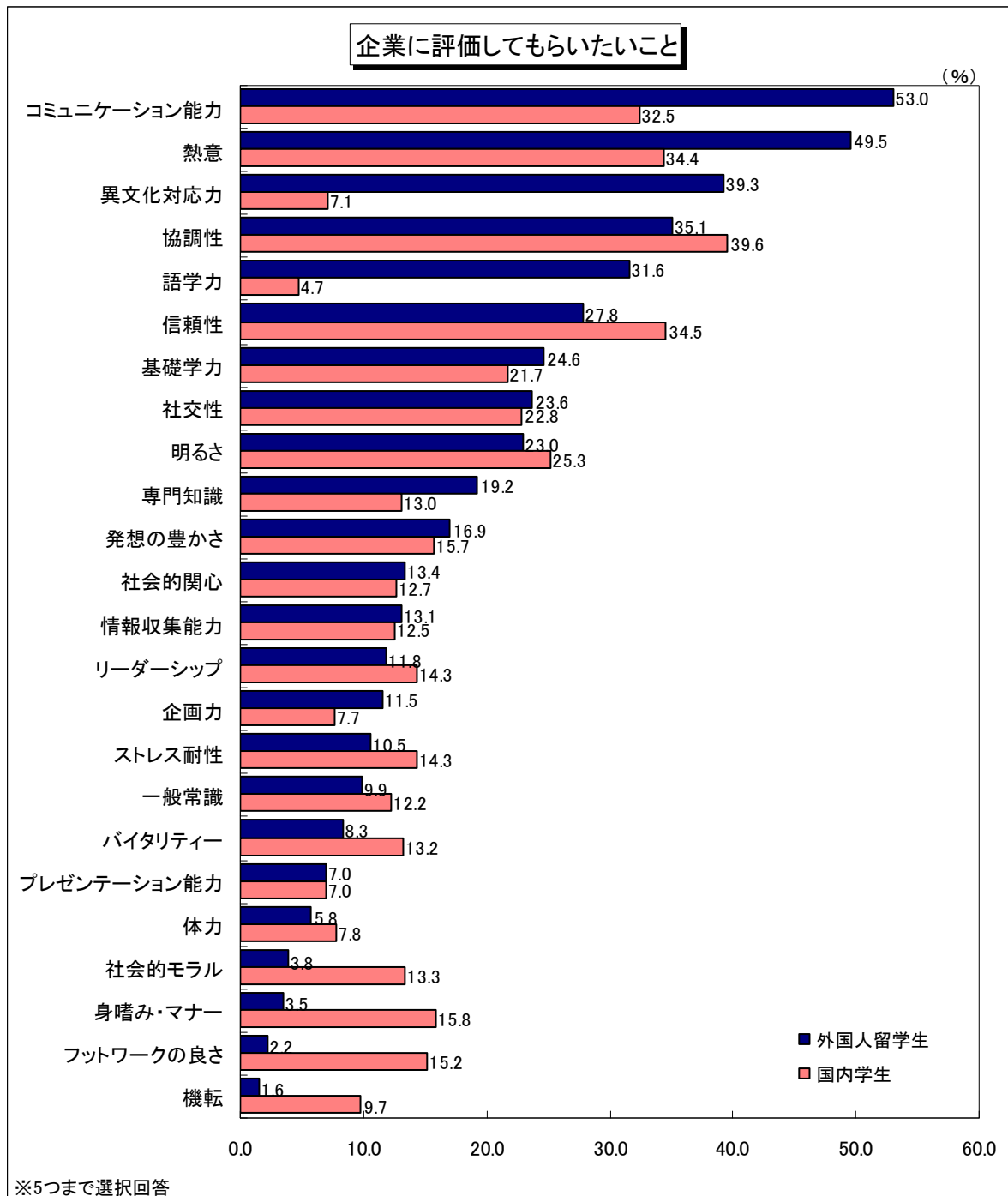


英語力についても、「ネイティブレベル」が 4.8%、「ビジネスレベル」が 31.3%と、4 割弱の学生がビジネスレベル以上の英語を話すことができると回答している。ビジネスレベル以上の英語を話せる国内学生は 1 割に満たないことから、外国人留学生のほうが高い英語力を持っていることが見て取れる。したがって、母国語と合わせて 3 か国語を話せる学生が多いこともわかる。



12. 企業に評価してもらいたいこと

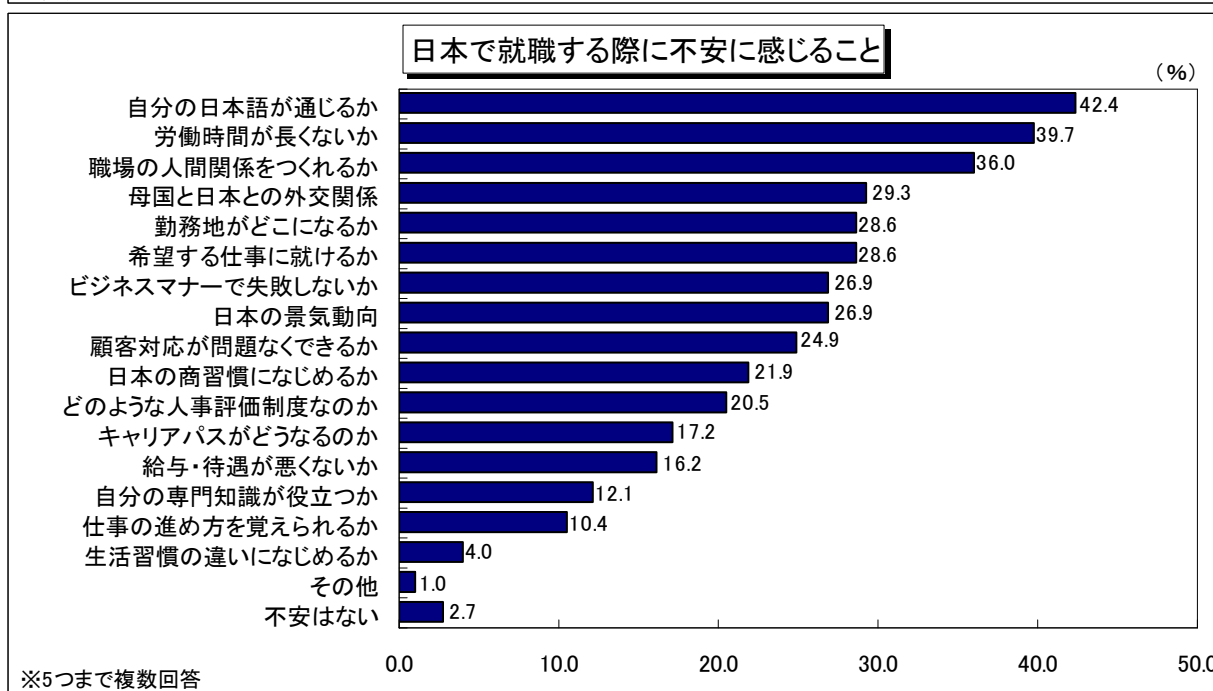
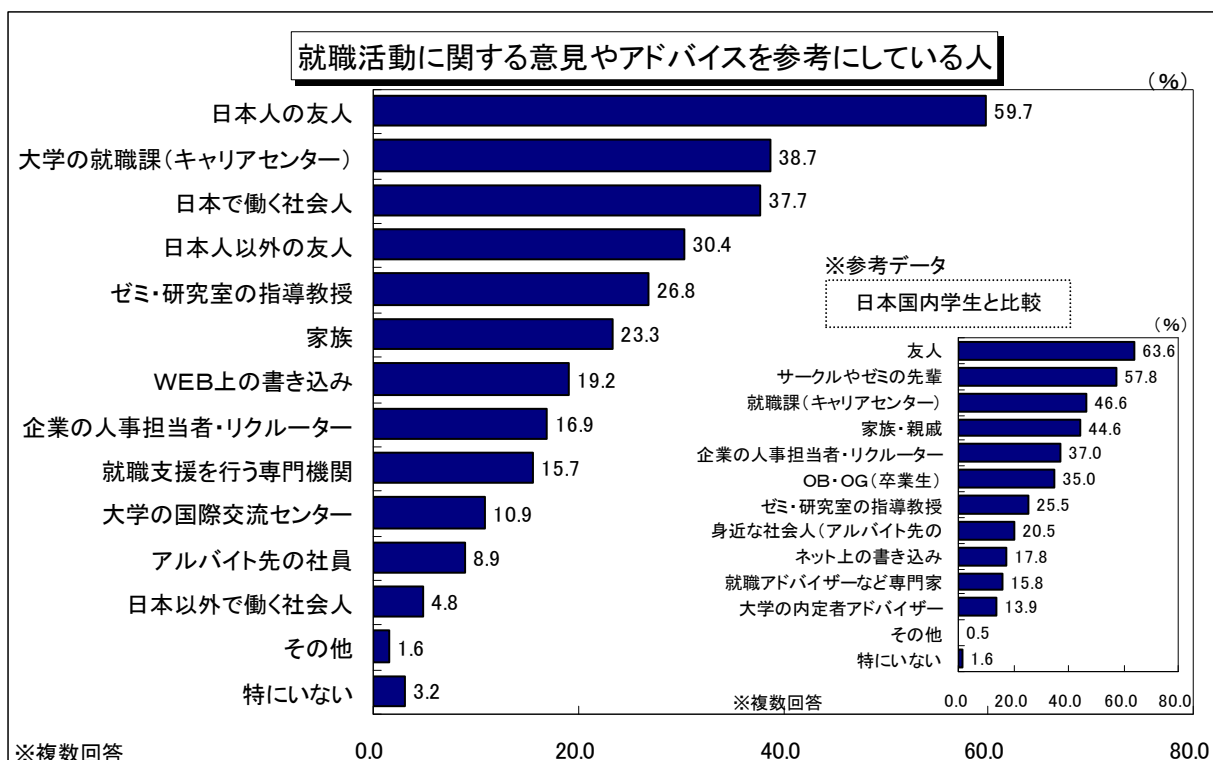
採用選考にあたって企業に評価してもらいたいことについて、24 項目の選択肢の中から 5 つまでを選んでもらったところ、「コミュニケーション能力」が 53.0%と一番多く、「熱意」49.5%、「異文化対応力」39.3%と続いた。これらの上位 3 項目と 5 位の「語学力」においては国内学生との差が開いており、特に「異文化対応力」については 32.2 ポイントと大きな差がついている。



13. 就職活動に関する意見やアドバイスを参考にしている人

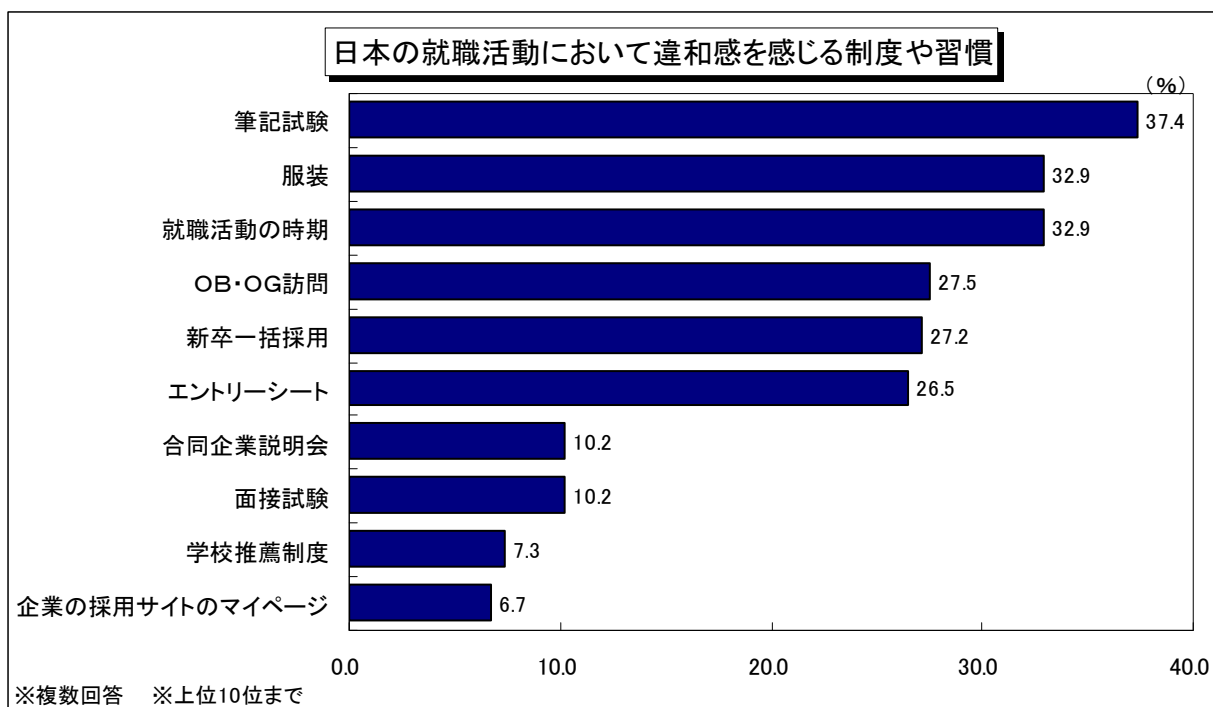
外国人留学生が就職活動に関する意見やアドバイスを参考にしている人については、「日本人の友人」が 59.7%と最も多く、続いて「大学の就職課（キャリアセンター）」が 38.7%、「日本で働く社会人」が 37.7%という結果だった。日本人以外の友人も含め、友人の意見を参考にしている学生が多いが、大学の就職課や教授など、大学でもアドバイスを受けていることがわかる。

また、日本で就職する際に不安に感じることは、「自分の日本語が通じるか」が 42.4%と最も多く、高い日本語力を有しながらも語学力への不安が大きい。その他、「労働時間が長くないか」への回答も多く、労働環境への関心も強い。



14. 日本の就職活動で違和感を覚えた制度や習慣

外国人留学生が、日本の就職活動について違和感を覚える制度や習慣については、「筆記試験」が 37.4%と一番多く、続いて、「服装」と「就職活動の時期」がともに 32.9%であった。例えば、海外ではレジュメ（履歴書）と面接が選考のメインであり、筆記試験は行わないケースが多い。日本では習慣化していて当たり前だと感じていることでも、外国人留学生から見ると奇異に映ることが多いという結果となった。



- 企業側は「留学生の採用予定があるかどうか」について、はっきり明示していただきたい。 <中国出身>
- 面接の回数が多すぎ、筆記試験で判断する企業が多いから、留学生にとっては非常に不利だと思う。 <ベトナム出身>
- 服装、スケジュールなどに関するルール・定めが多すぎます。 <ブラジル出身>
- 相談できる相手が少ないと感じました。 <中国出身>
- 新卒一括採用制度に違和感があります。これを逃せば就職のチャンスが大幅に減るのは、理不尽な気がします。また、日本での就職活動の時期が長い上、説明会参加などの拘束が強く、学業の時間を割かねばならないことに不満を感じています。 <中国出身>
- やはり、日本人と同じ立場で就職活動するのは簡単なことではないと実感しています。 <韓国出身>

【総括】

外国人留学生の語学カレレベルは非常に高く、コミュニケーション能力をアピールしている学生も多い。また、日本での就職を希望しながらも海外赴任への希望も多く、役職を目指す上昇志向の高い学生が目立っていた。但し、実際に自分の日本語が仕事で通用するかどうかや労働環境に不安を感じている学生、日本の習慣に違和感を覚える学生が多いことがわかった。